

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1123 2013年10月号

第39四国林政連絡協議会を開催

9月10日、香川県庁において四国林政連絡協議会を開催しました。
【詳細は2頁】



四国林政連絡協議会会長新木局長挨拶



九月一〇日、香川県庁において、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第三九回四国林政連絡協議会を開催しました。

九月一〇日、香川県庁有林行政と国有林野の管理経営との連携強化を図り、森林の適正な整備及び林業・木材産業の振興」となっており、国有林野事業が今年四月に特別会計から一般会計に移行した趣旨からも大変重要視しており、今後とも、ご参加の各構成機関との連携を更に密にする体制を構築して参りたい。』と挨拶がありました。

次に開催県である香川県の工代環境森林部長と林野

庁計画課齋藤企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告、林野庁から森林・林業を巡る最近の動きについての説明が行われ、その後、各機関から木材の利用拡大、木質バイオマス利用、里山林の再生等についての取組状況、森林総合研究所における各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があり、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。



林政審議会の提言を受け、四国森林管理局では、国有林材の供給において、木材価格急変時の供給調整機能を発揮するため、専門

的な観点から供給調整の必要性、実施方法について意見を求めることとし、「四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を設置しました。



国有林材供給調整検討委員会

今回、木材の生産、流通、加工等に係る有識者の中から八名の委員を選任し、「第一回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を九月二日に開催しました。

検討委員会では、高知大学名誉教授の川田委員を委員長に選任した後、四国森林管理局管内の木材需給、木

材価格の動向等について意見を踏まえると、現時点で見交換等が行われました。見を踏まえると、現時点では、国有林材の供給調整を行う必要はない。」との意見がまとめられました。



四国最大級の製材規模とされる。落成式には、高知県や知県大豊町で開催されました。二五〇人が出席し、当局からも新木局長、鶴園森林整備部長等が出席しました。

「高知おおとよ製材」は、高知県の森林資源の有効活用を図ることとして、全国トップの大手集成材メーカーを核に原木集荷役の高知県森林組合連合会、地元大豊町などが出資して構成

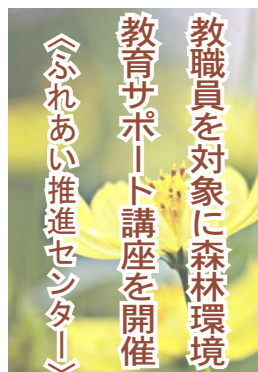
なる」とそれぞれ抱負が述べられました。

当面は年間五万㎡の丸太を加工し約一〇億円の売り上げを目指すこととしており、三年目以降のフル稼働時は、年間原木消費一〇万㎡、年商二一億円の計画となつていきます。こうした動きをうけ、四国森林管理局ではシステム販売等の実施により、安定的な木材供給に向けた取組を一層推進することとしています。



落成式でのテープカット
【向かって右から二番目新木局長】

各地のたより



ふれあい推進センターでは、平成一九年度から森林環境教育に関する指導者の

裾野の拡大を目的として、教職員の方々を対象に、研修会「森林環境教育サポート講座」を高知県と愛媛県で開催しています。

今年度は、七月二五日に高知県四万十市の市立中村南小学校で、八月二日に愛媛県宇和島市の市立宇和津小学校で開催し、八名の先生方が受講しました。

講座の内容は、「当セン

ターの活動、森林環境教育の重要性と森林の機能」及び、当センターが教科書補完プログラムとして作成した「空飛ぶ種子」「土壌にすむ生物」「炭焼き体験」「木工クラフト」を実施しました。

「空飛ぶ種子」では、植物が風や動物を利用するなど、様々な方法で種子を散布することを紹介し、アルソミトラ（東南アジア等に自生するウリ科の植物）やマツ、ニワウルシ等の種子模型を自分たちで製作し、飛ばして楽しみました。

「土壌にすむ生物」では、約一ヶ月前に校庭に埋めて



おいた野菜などの生ゴミ、落ち葉などを掘り起こし、腐り具合等を確認した後、土壌を採取して顕微鏡で微生物を観察しました。

「炭焼き体験」では、折り鶴・ドングリ・マツボックリなどが短時間で炭になることに感動し、また、「木工クラフト」では、次々にユニークな作品が完成していました。

実施後のアンケートでは、「空飛ぶ種子は、是非



種子の模型製作中(愛媛県)

子供たちに作らせた「炭焼き体験は、学校でも出来る」と「意外に簡単に炭焼きが出来る」などの感想をいただいています。

今回、学校行事等と重なった関係もあり、参加された先生は少数でしたが、森林に対する意識は大変高く、熱心に取り組んでいました。今後の実施に当たっては、多くの先生に参加いただけるよう実施時期等を検討したいと考えています。



埋めた野菜などを観察中(高知県)



九月一九日、宿毛市立小筑紫小学校で本年度三回目の五年生一二名を対象に森林教室「空飛ぶ種子」を実施しました。

最初に、植物の種子がどのような方法を使って種子を散布するのか学習しました。

風で回転しながら運ばれる種子もあれば、風に乗って運ばれる種子もありました。甘い果実で覆われた種子は、動物に食べられフンと一緒に散布されます。また、種子のカギやトゲなどにより通過する動物の毛

や皮に付着して散布されるものもあります。更に、水に浮いて散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを説明しました。



「種子の模型製作中」

その後、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」(東南アジア産のウリ科の植物)の風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかを実物を使って観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶ様子に「オー」と驚いていました。

次に、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。「アルソミトラ」の模型を製作中、教室内は「シーン」と静まり担任の先生も「ビックリ」、こんなに教室が静かになることはないとのこと。児童全員集中して模型作りを行いました。



「ラワンの種子の模型を飛ばす」

最後に、体育館でスチレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばすと体育館の天井近くまで上がり、くるくると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」と何度も飛ばしていました。

今回の学習を通じて、児童の植物や自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。

ふれあいセンターの人へ
今日はどんなことをするのかたのしみてした。

今日は空飛ぶ種子というのをして、最初にもけいもつくるといっていたから楽しめで最初に25分くらい話をきいてからもけいもつくっていろいろなもけいかつくてうれしかったです。

一番作るのをおもしろかったのはアルリミトラの種子を作るのをおもしろかったです。みんなかつくたのはあまり飛ばはなかつたけど本物はすごくとんていて自せんのかはすごいなあと思いました。

とばすのをおもしろかったのはニラウルシで形もおもしろかったしおとしたときにくるくるまわっておちるのをおもしろかったです。

今日は本当にありがとうございました。
いきました。

小筑紫小 五年 鶴島春士



森林共同施業団地運営会議

八月二七日、当署と徳島水源林整備事務所との森林共同施業団地運営会議が開催されました。徳島水源林整備事務所とは、平成二一年六月に菅生地域の協定締結を手始めとして、三好市



東祖谷檜尾地域・三好市東祖谷菅生（五郎谷）地域の三地域で森林共同施業団地協定を結び、双方一体となって森林整備を進めて来ました。当日は、平成二五年度の整備計画の進捗状況、平成二六年度以降の事業計画、事業実行上の課題、最近の林業情勢等について、意見交換が行われました。

森林整備の進捗等については、協定に基づき順調に進んでいることが確認できました。会議で関心が高かったのは、ニホンジカ被害対策の問題であり、徳島水源林整備事務所としては、シカ除けネット、メッシュチューブ等を使用した取り組みを行っているが、

ネット補修や、改植を繰り返しているとのことでした。お互いニホンジカ被害への対策に苦慮していることを認識しました。

国有林側からは、最近の林業情勢や、国有林野事業の一般会計移行について説明を行い、森林管理署の新たな体制や新設された森林技術指導官、地域林政調整官の職務内容について理解を深めていただきました。今後は、本年三月に徳島水源林整備事務所と協定を結んだ「六丁地域の路網整備等に関する協定書」をさらに発展させ、現在、徳島県林業公社・徳島県農林水産部と協定を結んでいる「六丁地域森林整備の推進に関する協定書」と一本化を図

り、大規模団地化する方向での検討を行うことを確認するなど収穫の多い会議となりました。



八月五日、高知県鳥獣対策課、香美市役所産業振興課、J A土佐香美、香美猟友会、三嶺の森をまもるみんなの会、嶺北署、安芸署、局技術普及課の総勢一六名が、当署の森林技術指導官の案内で香美市物部町安野山国有林二八林班外に八箇所設置している囲いわな・箱わなを視察しました。

この視察は、当署が、平成二四年度から設置しているシカ防護ネットを利用した大型囲いわなの捕獲実績が高いことから、高知県鳥獣対策課等から、ぜひ視察したいとの要請を受け実施したものです。

当日、午前一〇時に東笹林道のゲート近くの広場に集合し、森林技術指導官が管内概要により当署のあらましと平成二三年度から実施しているニホンジカ捕獲作業（囲いわな・箱わな）（請負事業者、香美猟友会）について、設置箇所、囲いわなの大きさ、場所の選定方法、平成二四年度の捕獲実績（四一頭）について説明しました。

この視察は、当署が、平成二四年度から設置しているシカ防護ネットを利用した大型囲いわなの捕獲実績が高いことから、高知県鳥獣対策課等から、ぜひ視察したいとの要請を受け実施したものです。

当日、午前一〇時に東笹林道のゲート近くの広場に集合し、森林技術指導官が管内概要により当署のあらましと平成二三年度から実施しているニホンジカ捕獲作業（囲いわな・箱わな）（請負事業者、香美猟友会）について、設置箇所、囲いわなの大きさ、場所の選定方法、平成二四年度の捕獲実績（四一頭）について説明しました。

また、嶺北署、安芸署から参加した森林技術指導官は今後の捕獲作業の参考にしたいとの意気込みで、笹岡さんに熱心に質問し、囲いわなの入り口開閉の仕掛けなどをカメラに記録して

わなを設置している三嶺地区は、視察参加機関等が連携してニホンジカ被害対策に当たっていますが、被害が沈静化しない状況にあることから、今後も機会を捉え、関係機関等との連携に努め、効果的な被害対策を進めたいと考えています。



視察の様子